

# 令和元年度第1回島田市男女共同参画推進委員会 会議要録

## 1 日時

令和元年5月10日（金）10：00～12：00

## 2 場所

島田市役所 第3委員会室

## 3 出席者

委員：犬塚委員、山本委員、出雲委員、池谷委員、松村委員

事務局：三浦地域生活部長、松村課長、小林課長補佐、杉本主事（市民協働課）

※その他、講話に男女共同参画推進会議幹事会（関係課職員）16人が参加。

## 4 内容

### (1) 委嘱状の交付

三浦地域生活部長から、委員4名に委嘱状を交付。

### (2) 地域生活部長あいさつ

### (3) 講話

委員の犬塚協太氏（静岡県立大学国際関係学部教授）による講話を実施。

演題：「男女共同参画社会」推進に向けて～委員に期待されるもの

### (4) 委員紹介（自己紹介）

資料1の順番で、各委員から自己紹介。その後、事務局職員の紹介。

### (5) 委員長・副委員長選任

互選により、委員長に犬塚委員、副委員長に池谷委員を選任。

### (6) 協議・報告事項

資料2・資料3にしたがって、事務局より説明。

《質疑》

A 委員：男女共同参画組織会議とあるが、どの会議がどのような立ち位置なのか分からない。組織図のようなものはないのか。

事務局：組織図は作成していなかった。初めて委員になられる方等に分かりやすいよ

う、一目で分かるものを用意する。

B 委員：今までの推進委員会のメンバーでは、委員になる前から男女共同参画について知識があったり、実際に取り組まれている方が多かった。新しい委員の方で、今まで男女共同参画について意識したことがあまりなかったとあったが、そういった視点もこれからの会議には必要だと思う。

出雲委員からも意見があったように、この会議の立ち位置はどこかという説明も事務局からは必要。特に、今年度から第3次の計画期間が始まるので、計画に対して今年度の役割は何かなどを明確にしてもらえるとありがたい。事務局からの説明にもあった第2次計画の5か年分の総合評価を、第3次の実施計画にもちゃんと反映してもらいたい。また、チェック機能としての役割を果たすためにも、資料を会議の3週間前までにはいただきたい。

事務局：松村委員のおっしゃるように、第2次の評価を前提にしなければ第3次の計画を進めていく上で、効果的ではないと思う。第2次の実績評価と第3次の実施計画を同時進行で作業していくため、明確な順序はつけられないが、第2次の評価結果を踏まえた実施計画を作成していくよう担当課に呼びかけていく。

C 委員：昨年までの委員会では、計画策定のために動いてきた。今年度は計画が動き出す年。委員会として役割を果たしてもらう年になる。特にヒアリングを行うことで、1年間の成果をチェックしてもらうことが大きい。市民の視点で意見や修正などを提言してもらいたいので、委員の皆さんは、ぜひ積極的に発言していただきたい。

女性相談の実績について、件数のみ記載されているが、相談内容などを集計した情報があれば提示してもらえるとありがたい。

A 委員：そもそも女性相談とはどのような相談窓口なのか。

事務局：女性特有の人間関係、夫婦・家族間の悩みなどについて相談にのっている。

C 教授：補足すると、フェミニスト・カウンセラーという専門の資格をもった相談員が対応している。ジェンダー問題を専門に学んだ方々で、他の一般相談などとは違った性質をもっている。幅広い分野での相談があるかと思うので、警察や関係課などと連携して進めていって欲しい。近年では男性相談の需要も出てきているかと思うが、市単独の予算では対応できないとの声も聞いている。自治体の広域連携事業として取り組むなど、方法を検討してみてもいいのでは。

B 委員：男女共同参画について、無関心の層が非常に多いように感じている。社会変動で縮小していく社会の中で、ジェンダーによって社会が分断されていることは、それに拍車を掛けるようなことだと学んだ。危機感を持って取り組んでいかなければならない。縦割りの行政を横のつながりに広げていくために各課にヒアリングを行っていききたい。

昨年度の計画策定のときからお願いしていることだが、第2次行動計画の評価を反映して、第3次行動計画の実施計画を作成して欲しい。

事務局：今年度はスケジュール上、第2次行動計画の総括となる評価と第3次行動計画の実施計画作成が並行して進む。各課に実施計画作成を依頼する際に、内部評価と整合性をとるよう呼びかけて、つながりをもった進捗管理に努める。次回の9月27日（金）の推進委員会で協議できるよう作業を進めていく。

D 委員：平成27・28年度に委員として計画策定に協力したことがある。自分は、子育てサークルを運営していて、父親が子育て支援をできるような講座に取り組んでいる。男女共同参画行動計画も地に足がついた計画として進めていけたらと思う。自分が前回の任期のときに少しずつ意識が変わっていったように、周りの意識も少しずつ変えていく必要がある。そのためにも、計画をコツコツと実践していければ。

C 委員：行政の方々には、庁内・地域での味方を増やしてもらいたい。それが縦割り行政から脱却して広く男女共同参画施策を展開するきっかけになる。静岡県立大学との連携事業についてもそろそろ形にしていきたい。

E 委員：庁内組織について説明があったが、今日前半の講話に出席していた人たちも職員か。どういう位置づけの方たちなのか。

事務局：庁内組織の男女共同参画推進会議幹事会のメンバーで、関係課の課長補佐級以下の職員が出席していた。実施計画の作成など計画の進捗管理について実務的に取り組んでもらう職員という位置づけである。

E 委員：事業ヒアリングは、どのように行うのか。

事務局：実施計画にある事業の中から、委員に関心のある項目をピックアップしてもらい、事業担当課職員へ直接事業の実績等について聞き取りを行う。時間の関係上、事業数は絞って行っている。

※次回委員会の日程確認など連絡事項を伝え、閉会。